



有給取得日数は 外国人役員の属性によって 変化するか

一橋大学経済学部 岡室ゼミ

金子雄大・大野倫太郎・沈和暉

目次

1. 有給休暇とは
2. 研究背景・新規性
3. 先行研究
4. 検証結果
5. 総括
6. 本研究の限界と今後の展望

ソニーミュージックグループ

株式公開
していない

【特色】ソニーの完全子会社。広範な音楽事業を担う

休日
HOLIDAY

修士・大卒採用数 | 3年後離職率 | 有休取得年平均 | 平均年収(平均NA)

NA

NA

NA

NA

残業(月)

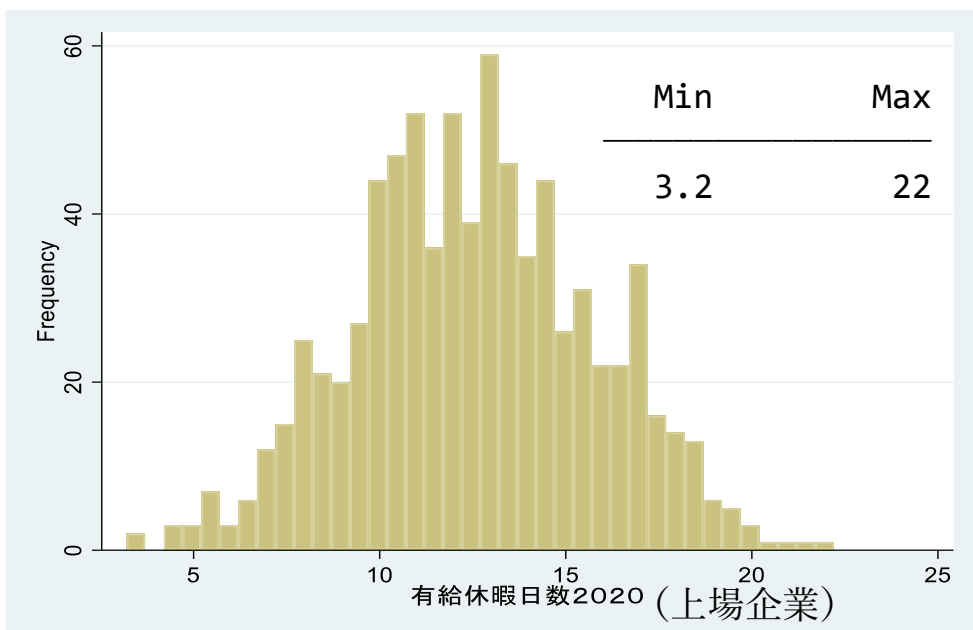
時間NA、年俸制のため額ND

記者評価 旧CBS・ソニーレコード。ソニーの音楽系事業でグループを形成。有力アーティストやタレントを多数

彼女は有給休暇を取れるのだろうか？

有給取得日数とは

- ・ 日本は、**法律**で付与日数が決まっている



継続勤務年数	0.5	1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5以上
付与日数	10	11	12	14	16	18	20

「業種、業態にかかわらず、また、正社員、パートタイム労働者などの区分なく、一定の要件を満たした全ての労働者に対して、年次有給休暇を与えなければならない。」
(労働基準法第39条)

有給休暇の少ない企業、多い企業

- ・ 有給取得日数5日以下の企業群の特徴（7社）

飲食業や小売業が多い。（7社中4社）

最下位はライフコーポレーションの3.2日（スーパー）

- ・ 有給取得日数20日より多い企業群の特徴（4社）

4社とも創業年数が長く、保守的な組織体制である企業であった。
業種はメーカー、インフラとばらつきがあった。

（明電舎、ENEOS、DMG森精機、SOMPOホールディングス）

研究背景・新規性

・背景

- 1、就活四季報を眺めている中で、平均勤続年数が6.5年以上の企業でも平均有給取得日数が20日を下回る企業が多いことに疑問に感じた。
- 2、近年、高額な年俸を提示して外国人を迎え入れる企業が増えるという背景から、彼らが果たして企業に対して良い働きをしているのか疑問。

・新規性

先行研究を調べたところ、有給取得日数を被説明変数にして回帰分析を行った研究は少ない。

外国人役員→ガバナンスの強化→有給取得日数の増加

はじめに

勤続年数は有給取得日数をどこまで説明しているのか？

分析方法：OLS推定

被説明変数：有給取得日数

説明変数：平均勤続年数

結果

R-squared = 0.0652

Adj R-squared = 0.0639

決定係数が小さく、あまり説明できていない。
今回は他にどのような要素が有給取得日数を
左右しているのかを考えていく。

先行研究

- 先進国の中で労働者に有給休暇を法律上で保障していないのは米国だけ。
→ **米国由来の役員が企業にいても、有給取得日数は増えないのでは？**
- カナダでは、農業、宿泊・飲食サービス、建設業の従業員では、最低日数の有給休暇を取得している人は半数以下である。
→ 業界差が大きい (**業界ダミーの作成**)

仮説

- ①日本でも有休取得日数は業界差によって大きく変わる。
- ②外国人役員が会社に入ることによって、有給取得日数は増える。
- ③外国人役員で自社の株を所有している人ほど、
企業に対する影響力 が強く、有給取得日数は増加する。
- ④外国人役員の由来によって有給取得日数は変化する。

使用したデータ

基準：日本の全上場企業3278社が対象、2020年

○[東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー](#)
(2022年度版)

会社四季報：外国人持ち株比率のデータ

就職四季報：有給取得日数、勤続年数の作成

役員四季報：外国人役員ダミー

○[日経NEEDS FinancialQUEST](#)：業界ダミー

検証 1

仮設 1 : 日本でも有休取得日数は業界差によって大きく変わる。

変数

①企業のサイズ : **従業員数** (対数)

②業界ダミー : 日経業種中分類を独自に組み合わせた→**ダミー変数**

有給取得日数の傾向 (予想)

長い : 市場独占度の高いインフラ系 (電力、ガス、鉄道・バス、石油)

短い : 休暇の取りにくい建設、小売、飲食、陸運。

分析方法 : OLS推定

結果 1

右の重回帰分析より、すべての変数において
5%有意を満たしていた。

Number of obs	=	719
F(7, 711)	=	52.57
Prob > F	=	0.0000
R-squared	=	0.3410
Adj R-squared	=	0.3346
Root MSE	=	2.5892

- 企業規模が大きいほど長い。
- 独占度の高い公共系、
インフラ系の業種は長い。
- 休暇の取りにくい業種は短い。

→今後、このダミーセットを用いて
コントロールしていく。

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t
勤続年	.1612683	.0303676	5.31	0.000
log従業員	2.314132	.222568	10.40	0.000
インフラダ	1.77032	.478181	3.70	0.000
建設ダ	-4.044074	.4128275	-9.80	0.000
小売ダ	-3.892445	.5117505	-7.61	0.000
陸運ダ	-2.238775	1.06306	-2.11	0.036
飲食ダ	-3.635362	.9236749	-3.94	0.000
cons	2.707897	.809313	3.35	0.001

検証 2

仮説 2 : 外国人役員が会社に入ることによって、有給取得日数は増える。

→外国人役員のダミーを作る。

補足 : ①外国人役員とは日本以外の名字で大学、

勤務地が一度でも外国である役員（監査は除く）。

②同じ会社に外国人役員が何人（0人以外）いても 1 とする。

<検証方法>

OLS推定

結果 2

外国人役員がいることで、有給取得日数が1.2日増える。

<逆の因果関係について>
役員レベルでは就任の是非を
有給休暇日数の長短で
決定することはないだろう。

故に、上記の分析結果を
因果関係として捉えて良いと
考える。

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t
外役ダ	1.2679	.3321646	3.82	0.000
勤続年	.1595796	.0300851	5.30	0.000
log従業員	2.093114	.2279505	9.18	0.000
インフラダ	1.904871	.4749918	4.01	0.000
建設ダ	-3.906688	.4105242	-9.52	0.000
小売ダ	-3.745131	.5084026	-7.37	0.000
陸運ダ	-2.067105	1.054018	-1.96	0.050
飲食ダ	-3.518564	.915496	-3.84	0.000
_cons	3.31197	.8171691	4.05	0.000

検証 3

仮説 3 : 外国人役員で自社の株を所有している人ほど、
企業に対する影響力が強く、有給取得日数は増加する。

< 検証方法 >

OLS推定

結果 3

自社の株を所有している外国人役員と有給取得日数は
因果関係はみられない。

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t
外役持株ダ	.0499654	.6738655	0.07	0.941
外在年	.062078	.0559167	1.11	0.267
勤続年	.1634871	.0304444	5.37	0.000
log従業員	2.260633	.2277613	9.93	0.000
インフラダ	1.802826	.4795819	3.76	0.000
建設ダ	-4.011556	.4137208	-9.70	0.000
小売ダ	-3.84819	.5125529	-7.51	0.000
陸運ダ	-2.190669	1.063422	-2.06	0.040
飲食ダ	-3.597265	.9238737	-3.89	0.000
_cons	2.808064	.8216557	3.42	0.001

検証 4

仮設 4 : 外国人役員の由来によって有給取得日数は変化する。

(予想) 米国→有給取得日数は減る。

欧州→有給取得日数は増える。

補足 : 外国人役員の在籍年数による影響力をコントロールする。

<検証方法>

OLS推定

補足 : 米国と欧州の両方に由来を持った場合、どっちも 1 とする。

結果 4

- ・ 米国由来は有給取得日数に対して**正の相関関係**がある。

米国が予想に反した理由

- ・ 慣習法の国で有給を支給する習慣がある。
- ・ 役員となる人は、企業内の生え抜きによる抜擢ではなく、海外のガバナンスを重視する大企業を経験した人が多い。

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t
米ダ	1.308365	.4545791	2.88	0.004
欧ダ	1.11605	.6951055	1.61	0.109
アジアダ	1.627186	.6454471	2.52	0.012
外在年	-.1073608	.0594654	-1.81	0.071
勤続年	.154599	.0301447	5.13	0.000
log従業員	2.014083	.2309496	8.72	0.000
インフラダ	1.949155	.4751391	4.10	0.000
建設ダ	-3.892915	.4103305	-9.49	0.000
小売ダ	-3.75789	.5072215	-7.41	0.000
陸運ダ	-2.067751	1.051734	-1.97	0.050
飲食ダ	-3.544284	.9134824	-3.88	0.000
_cons	3.655801	.8295684	4.41	0.000

頑健性チェック

今回、被説明変数である有給取得日数によってデータが限定された。
その標本が全上場企業とどのような偏りがあるか見ていく。
それぞれの標本平均を比べてみる。

外国役員や外国持ち株比率では大きく偏りがみられるが、それ以外は年収を除いて大きな差はみられない。

	平均勤続年数	従業員数	年収（会社）	年齢	外国人持ち株比率	外国人役員ダミー
有給休暇日数のあるデータ	16.04776	3612.872	722.9983	41.57437	21.02956	0.132242
全体のデータ	16.03392	3615.556	641.7166	40.08769	13.99952	0.054095

総括

- ・市場独占度の高いインフラや休暇の取りにくい業界では大きな違いがみられた。
- ・外国人役員の存在は有給取得日数の増加に貢献している。
- ・外国人役員と有給取得日数への影響に、その人の自社株保有は関連ないと言えるだろう。
- ・米国由来の役員は予想に反して有給取得日数の増加に貢献している。

本研究の限界と今後の展望

- ・就職四季報を用いたが、有給取得日数などの欠損値が多かった。
- ・外国人役員の出身地など詳細な情報を調べるのが難しかった。
- ・外国人役員の就任から効果が出るまでの時間差を考慮できていない。
- ・パネルデータ分析は役員の数少なく、差分を取るとほとんど効果を見ることができなくなるためできなかった。今後他年度のクロスセクションと比較して研究を深めていきたい。
- ・新型コロナによるテレワークが有給取得日数にどういう影響を与えたのかを調べるのも興味深い。
- ・米国の事例より、法による有給休暇強制による効果が低いかどうかを調べるのも興味深い。



有給取得日数最下位の
ライフ 3.2日

ご清聴ありがとうございました

参考資料

- Joseph G. Altonji and Emiko Usui (2007) “Work Hours, wages, and vacation leave”
Industrial & Labor Relations Review, Vol.60, pp408-428
- Margo Hibrecht and Bryan Smale(2016) “The contribution of paid vacation time to wellbeing among employed Canadians”, Journals of the Canadian Association for Leisure Studies, Vol.45, pp31-54
- Daniel Kim (2019) “Does paid vacation leave protect against depression among working Americans? A national longitudinal fixed effects analysis”, Scand J Work Environ Health, Vol.45, pp.22-32.

参考資料

- ・ 佐々木禎（2011）, 「IFRS（国際会計基準）の導入で年次有給休暇の取得は進むのか」
生活福祉研究,78号,pp1-21
- ・ 森川正之（2014）, 「女性・外国人取締役はどのような企業にいるのか？—サーベイデータによる分析—」, REITI Discussion Paper,14-J-025
- ・ 白坂蕃（2014）, 「ヨーロッパの経験した観光開発と有給休暇制度」, 立教大学観光学部
紀要,16号,pp48-63

記述統計量

```
. summarize 有給日 勤続年 log従業員 外在年 外役ダ 米ダ 欧ダ アジアダ 外役持株ダ インフラダ 建設ダ 小売ダ 陸運ダ 飲食ダ, separator(0)
```

Variable	Obs	Mean	Std. Dev.	Min	Max
有給日	794	12.49899	3.197082	3.2	22
勤続年	720	16.04776	3.376649	1.69	25.5
log従業員	724	3.289461	.4478485	1.88	4.87
外在年	794	.675063	2.523075	0	26
外役ダ	794	.1322418	.338967	0	1
米ダ	794	.0982368	.2978221	0	1
欧ダ	794	.0377834	.1907921	0	1
アジアダ	794	.0352645	.1845638	0	1
外役持株ダ	794	.0528967	.2239684	0	1
インフラダ	794	.0415617	.1997112	0	1
建設ダ	794	.059194	.2361361	0	1
小売ダ	794	.0503778	.2188612	0	1
陸運ダ	794	.0088161	.0935383	0	1
飲食ダ	794	.0100756	.0999331	0	1

分析 はじめに

. regress 有給日 勤続年, vce(ols)

Source	SS	df	MS	Number of obs	=	720
Model	472.78536	1	472.78536	F(1, 718)	=	50.12
Residual	6773.28259	718	9.43354122	Prob > F	=	0.0000
Total	7246.06795	719	10.0779805	R-squared	=	0.0652
				Adj R-squared	=	0.0639
				Root MSE	=	3.0714

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
勤続年	.2401495	.0339224	7.08	0.000	.1735505	.3067485
_cons	8.689471	.5562831	15.62	0.000	7.597335	9.781607

分析 1

. regress 有給日 勤続年 log従業員 インフラダ 建設ダ 小売ダ 陸運ダ 飲食ダ, vce(ols)

Source	SS	df	MS	Number of obs	=	719
Model	2466.89829	7	352.414041	F(7, 711)	=	52.57
Residual	4766.50219	711	6.7039412	Prob > F	=	0.0000
				R-squared	=	0.3410
				Adj R-squared	=	0.3346
Total	7233.40048	718	10.0743739	Root MSE	=	2.5892

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
勤続年	.1612683	.0303676	5.31	0.000	.1016475	.2208892
log従業員	2.314132	.222568	10.40	0.000	1.877163	2.751101
インフラダ	1.77032	.478181	3.70	0.000	.831504	2.709135
建設ダ	-4.044074	.4128275	-9.80	0.000	-4.85458	-3.233567
小売ダ	-3.892445	.5117505	-7.61	0.000	-4.897168	-2.887722
陸運ダ	-2.238775	1.06306	-2.11	0.036	-4.325887	-.1516634
飲食ダ	-3.635362	.9236749	-3.94	0.000	-5.448819	-1.821906
_cons	2.707897	.809313	3.35	0.001	1.118968	4.296826

分析 2

. regress 有給日 外役ダ 勤続年 log従業員 インフラダ 建設ダ 小売ダ 陸運ダ 飲食ダ, vce(ols)

Source	SS	df	MS	Number of obs	=	719
Model	2562.74616	8	320.34327	F(8, 710)	=	48.70
Residual	4670.65432	710	6.57838637	Prob > F	=	0.0000
				R-squared	=	0.3543
				Adj R-squared	=	0.3470
Total	7233.40048	718	10.0743739	Root MSE	=	2.5648

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
外役ダ	1.2679	.3321646	3.82	0.000	.6157574	1.920042
勤続年	.1595796	.0300851	5.30	0.000	.1005132	.218646
log従業員	2.093114	.2279505	9.18	0.000	1.645576	2.540652
インフラダ	1.904871	.4749918	4.01	0.000	.9723142	2.837427
建設ダ	-3.906688	.4105242	-9.52	0.000	-4.712675	-3.100702
小売ダ	-3.745131	.5084026	-7.37	0.000	-4.743283	-2.746979
陸運ダ	-2.067105	1.054018	-1.96	0.050	-4.136469	.0022599
飲食ダ	-3.518564	.915496	-3.84	0.000	-5.315967	-1.721161
_cons	3.31197	.8171691	4.05	0.000	1.707613	4.916327

分析 3

```
. regress 有給日 外役持株ダ 外在年 勤続年 log従業員 インフラダ 建設ダ 小売ダ 陸運ダ 飲食ダ, vc  
> e(ols)
```

Source	SS	df	MS	Number of obs	=	719
Model	2481.87857	9	275.764285	F(9, 709)	=	41.15
Residual	4751.52191	709	6.70172343	Prob > F	=	0.0000
Total	7233.40048	718	10.0743739	R-squared	=	0.3431
				Adj R-squared	=	0.3348
				Root MSE	=	2.5888

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
外役持株ダ	.0499654	.6738655	0.07	0.941	-1.273045	1.372976
外在年	.062078	.0559167	1.11	0.267	-.0477042	.1718602
勤続年	.1634871	.0304444	5.37	0.000	.1037151	.2232591
log従業員	2.260633	.2277613	9.93	0.000	1.813465	2.7078
インフラダ	1.802826	.4795819	3.76	0.000	.8612558	2.744397
建設ダ	-4.011556	.4137208	-9.70	0.000	-4.82382	-3.199291
小売ダ	-3.84819	.5125529	-7.51	0.000	-4.854493	-2.841887
陸運ダ	-2.190669	1.063422	-2.06	0.040	-4.278501	-.1028362
飲食ダ	-3.597265	.9238737	-3.89	0.000	-5.41112	-1.783409
_cons	2.808064	.8216557	3.42	0.001	1.194895	4.421234

分析 4

```
. regress 有給日 米ダ 欧ダ アジアダ 外在年 勤続年 log従業員 インフラダ 建設ダ 小売ダ 陸運ダ 飲
> 食ダ, vce(ols)
```

Source	SS	df	MS	Number of obs	=	719
Model	2602.42832	11	236.584393	F(11, 707)	=	36.12
Residual	4630.97216	707	6.55017278	Prob > F	=	0.0000
Total	7233.40048	718	10.0743739	R-squared	=	0.3598
				Adj R-squared	=	0.3498
				Root MSE	=	2.5593

有給日	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
米ダ	1.308365	.4545791	2.88	0.004	.4158779	2.200851
欧ダ	1.11605	.6951055	1.61	0.109	-.2486681	2.480768
アジアダ	1.627186	.6454471	2.52	0.012	.3599634	2.894408
外在年	-.1073608	.0594654	-1.81	0.071	-.2241107	.0093892
勤続年	.154599	.0301447	5.13	0.000	.0954152	.2137828
log従業員	2.014083	.2309496	8.72	0.000	1.560654	2.467512
インフラダ	1.949155	.4751391	4.10	0.000	1.016303	2.882008
建設ダ	-3.892915	.4103305	-9.49	0.000	-4.698527	-3.087303
小売ダ	-3.75789	.5072215	-7.41	0.000	-4.753731	-2.76205
陸運ダ	-2.067751	1.051734	-1.97	0.050	-4.132646	-.0028551
飲食ダ	-3.544284	.9134824	-3.88	0.000	-5.337746	-1.750821
_cons	3.655801	.8295684	4.41	0.000	2.027088	5.284513